令和７年度学校評価表

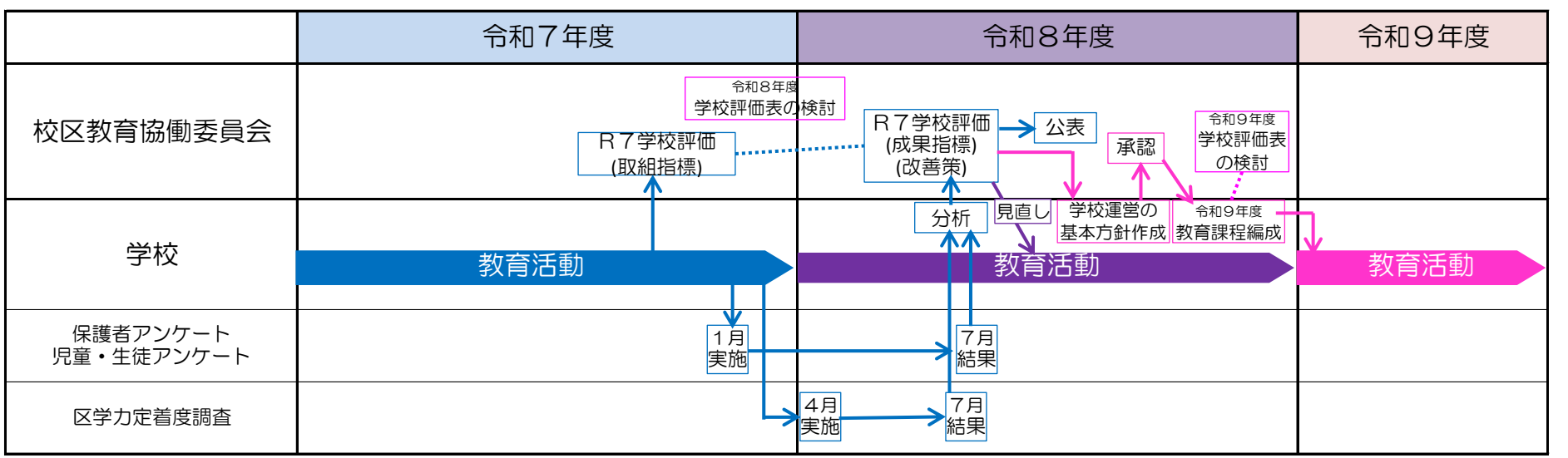
品川区立鈴ケ森中学校	校長	野口　芳一
鈴ケ森小学校・鈴ケ森中学校校区教育協働委員会	委員長	庭野　正和

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。
⑹ その他学校運営に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立鈴ケ森中学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標		〇わかる授業・参加できる授業・規律ある授業の実施、授業時数確保、適正な評価・評定 〇学習意欲を高める工夫、遅れがちな生徒への学習支援、各種検定の試験実施・推奨 〇指導力向上へのたゆまぬ研鑽		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	次年度4月実施の「区学力定着度調査」の結果で、同一集団の前年度を上回る。	多くの学年・教科で品川区平均を下回った。	B	・教科指導における重点事項の検討を実施する。 ・授業時間の大幅カットによる学習指導時間が不足している点は工夫して改善できるかを検討する。 ・調査結果を有効活用し基礎学力を定着させる。
	本年度の調査結果を分析し、学力向上に向けた取組を確実に実施する。	課題への対応が不十分な箇所がまだ存在しており、引き続き取り組みが必要な状況。	B	
②	生徒は授業規律を守り、主体的に授業で学んでいる。	教員自身の授業改善により、生徒が主体的に取り組めている。	B	・学級委員,生活委員、どちらからもチャイム着席の呼びかけができるよう委員会を通して全校で指導する。 ・「主体的・対話的で深い学び」については、教員の個人能力差もあると思うが、できる限りノウハウの共有を行っていく。
	生徒のチャイム着席、教員のチャイム始業を徹底する。	継続して学級委員会のメンバーに自覚をもって声掛けをするよう指導している。	B	
	「主体的・対話的で深い学び」の充実、「グループ活動」の実践、「ICT機器の活用」により、「わかる」＋「参加できる」授業を実践する。	「主体的・対話的での深い学び」の充実については、実践へ向けての途中段階である。	B	
③	生徒への個別最適な指導を実践する。	特別支援教室「すずの音教室」、及び学習支援員、学校生活支援員により、サポートが必要な生徒に対して個別最適な指導を行えている。	A	・個別最適な指導は理想ではあるが、日常の授業では授業進度・1クラスあたりの生徒数を考えると厳しい面がある。少なくとも、全教職員間で情報共有し、支援内容の共有化を図るよう徹底していく。 ・地域人材の活用については、学校地域コーディネーターと更に検討を進めていく。 ・教員間の情報共有を密にし、適切な指導を目指す。
	校内委員会を定期開催し、特別支援教育の共通理解のもと、全教員が適切に指導する。	議事録をはじめ、学年内で共有する等、手厚く対応している。	A	
	特別な支援を必要とする生徒への支援を広げ、必要に応じて通常授業で地域人材の活用を図るなど、全ての生徒にわかりやすい授業になるように工夫する。	授業計画を立てることの徹底、配慮を必要とする生徒の共有を継続している。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鈴ケ森中学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標				
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	学校生活アンケートにおいて、学校生活の基本である「挨拶」、「正しい言葉遣い」、「ルールを守る」を80%以上の生徒が実践できていることを確認する。	アンケート結果より、各学年80%以上の肯定的回答がみられた	A	・効果検証ができる目標設定を行わないと正しく評価を行うことができないため、次年度以降改善していく。また、目標そのものだけではなく、なぜその目標を設定しているのか、何のために必要なのかを理解できるように指導していく。　・委員会について、より良い学校生活に向けて各委員会が何をすべきか、考え行動させるよう指導する。
	教師が範を示すと共に、生徒会や生活委員会が活性化するよう指導し、挨拶運動などに取り組む。	委員会活動がただ仕事をやっているだけになっている。	B	
②	生活アンケートの「学校は楽しいですか」と「友達と仲良くしていますか」の肯定的回答を全学年80%以上にする。	アンケート結果より、各学年80%以上の肯定的回答がみられた	A	・定められた授業や講演の実施だけではなく、生徒がどのような影響を受けるか、日々の学校生活に反映されるかを見極め、今後の取り組みに生かしていく。 ・引き続き、生徒が安心して過ごせる学校づくりを進めていく。
	「生命の安全教室」「留学生が先生」「いのちの授業」を通して、多様性を認め、他を受け入れる意識を醸成し、行動できる生徒を育成する。	「目指すべき外国人との共生社会」のテーマで出入国在留管理庁から派遣された講師による講演会（9年）、「生きることの意味と逆境の乗り越え方」のテーマで難病を抱えながらも前向きに生き、全国で自分の体験を話されている講師による講演会（全校）などを通して、豊かな心の育成を行っている。	A	
③	生徒が自ら成長を実感できる機会や場を充実させ、自己肯定感や有用性を育む。	行事や日々の学習活動に取り組む中で、目標設定を正確に行いそれを達成することで、自己肯定感を育んでいる。	A	・校外での活動や宿泊を伴う行事、体育祭や学習成果発表会など、様々な経験を各学年で積み重ねていき、今後も主体性を育んでいく。 ・市民科の授業を中心に自己肯定感の向上を目指す。
	校内、校外での行事に対し、生徒が主体的に取り組む機会を設け、自らの考えを伝え、行動に移す力を育む。	今年度も校内（体育祭や学習成果発表会）、校外（修学旅行や移動教室、校外学習、キャリア体験）など様々な行事を実施することができた。行事によって実行委員会等を組織し、生徒の意見をくみ取りながら実践できている。また、生徒自身による意見交換や自主的に行動する機会を通じて、積極的な活動ができている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鈴ケ森中学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標		〇区「スポーツトライアル」、「テクニカルアドバイザー」の計画的な活用 〇睡眠や食事などの生活改善の指導と、健康の保持増進の啓発		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	体力調査の結果をもとに、基礎体力を向上させるための取組を体育の授業に反映し、基礎体力の向上を図る。	単元ごとの基礎トレーニング、柔軟体操や、ウォーミングアップで音楽を取り入れるなど、意欲的に取り組めるよう工夫し、体力の向上に努めている。	A	・継続して基礎体力の向上を図るとともに、運動・スポーツ・保健体育が好きであるという生徒数を増やすため、単元ごとの補強トレーニングを実施する。
	体育の指導で、単元ごとに補強トレーニングや柔軟性を高めるトレーニングを導入する。また、持久力を高めるランニングに取り組ませる。	単元ごとに補強トレーニングや柔軟性を高めるトレーニングを取り入れている。ランニングの際は音楽をかけ、走りながら気持ちが乗るよう工夫している。また、校庭の広さを最大限に活用することで運動量が増え、体力の向上につながっている。	A	
②	健康に関する意識を高め、より良い生活習慣を身に付け、健康の保持増進に臨む態度を育する。	掲示物や保健だよりで、健康や保健に関する情報発信がなされている。学校ホームページも活用されている。	A	・栄養士との連携のもと、教科と関連付けた食育の授業を実施していく。 ・残菜が相変わらず多い。継続して改善に向けた工夫を行う。 ・ペーパーレス化を進めるため、お便りの発行についてはさらに学校ホームページ等を活用していく。 ・不定愁訴で保健室を来室する生徒が一定数みられる。外部講師を招いての睡眠講座などを開催していく。
	生活リズムや食育、健診後の受診、感染症の予防についてなど、家庭との連携を図りながら健康教育の充実を図る。	保健だより、給食だよりの発行は十分に行われている。また、学校保健委員会による保護者（家庭）との連携も行われている。さらに保護者や教員の協力があり、定期健康診断の事後措置を滞りなく行うことができた。	A	
	食育を教科での指導と関連付けたり、残菜をSDGsの視点から考えさせるなど、具体的な指導実践から主体的に取り組む態度を育む。	教科と関連付けた食育の実践が行われていない。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鈴ケ森中学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標				
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめを理由とした不登校生徒数をゼロにする。	安心・安全な学校づくりのために、いじめの早期発見対応を継続した結果、いじめを理由とした不登校生徒数はゼロとなった。	A	・遠隔の小中一貫校であるものの、積極的に連携を図り、連携を深めることができている。今後はいじめだけでなく、授業や各学年の状況なども含め、連携を図っていく。引き続き、未然防止に取り組むため、情報共有を密にする。
	「学校いじめ防止基本方針」「対応手順書」を確実に履行し、鈴ケ森校区として9年間を見通したいじめの防止に取り組む。	小・中学校間での情報交換の機会を定期的に設け、密な連携を図りながら、よりよいいじめ対策・対応について反省・改善ができた。	A	
	小学校との情報交換・共有を徹底し、小学校での事案に対しても、継続して対応できる体制を整える。	月に一度の生活指導主任同士での情報交換を実施した。また3月には、6年生の担任と中学校の教員による個別の情報交換を実施した。	A	
②	いじめを未然に防止し、早期に対応する。	いじめ防止対策委員会を中核として、全職員がいじめについて意識を高めて迅速な対応をしている。	A	・デイケンやいじめDアンケート、ニコリなどを活用するとともに、日々の生徒の状況を観察、学校内で共有することができている。引き続き、情報共有を密にし、未然防止に取り組む。 ・授業や日々の学校生活を通じて、いじめに対する啓もう、理解を深めていく。
	報告・連絡・相談・確認を徹底すると共に、日常的な生徒観察と各種アプリを活用し、生徒の状況をみとり、情報を迅速に共有し、即時対応する。	個人のタブレットを活用し、毎日の心身の健康観察に加え月に一度の生活アンケートを行い、こまめに生徒の状況を把握している。	A	
	「人権標語の提示」「いじめ防止ポスターの掲示」「市民科の授業でいじめに関する道徳の授業」などの実践により、日頃からいじめに対しての関心を高めるとともに、いじめに関する校内研修を行い、いじめに該当する行為への理解を深める。	各学年で取り組みを行っている。また、教員も研修を行い、いじめに対する理解を深め、未然防止・早期発見・早期対応を心掛けている。	A	
③	生徒会を中心に全校生徒が主体的に学校生活の課題と向き合い、思いやりの溢れる学校風土をつくる。	学校風土調査におけるスクールセーフティの度合いが区平均よりも大幅に高い結果となっている。安心・安全で思いやりのあふれる学校風土が定着している。	A	・以前、ピンクリボンやいじめ五箇条の星マークを作り、全校生徒でいじめ防止活動をしていた。今後も、生徒会を中心に学校での課題を考えさせ、解決に向けた取り組みを充実させる。
	生徒会を中心に学級や学年の友達を大切にする企画を立案・実施し、仲間を大切にし良好な人間関係が築けるようにする。	生徒会や委員会を中心に挨拶運動や縦割り活動を行い良い雰囲気で学校生活を送ることができる工夫している。	A	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鈴ケ森中学校

公開

評価項目５　特色ある教育活動に関すること

重点目標	〇地域ボランティア活動への積極的な参加、ボランティアマインドと自己有用感の醸成 〇生徒主体の学校行事などの取組による、達成感や充実感の高揚 〇コミュニティ・スクールとしての地域との連携、人材の活用

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	コミュニティ・スクールを活用して、地域と連携した教育活動を実践し、地域への愛着や生徒の社会性、自己有用感を醸成する。	地域ボランティア、キャリア体験や放課後学習支援活動など地域と連携した教育活動を継続的に行うことでより一層、地域への愛着や社会性が育成される姿があった。	A	・地域資源の活用を継続して行っていく。 ・継続してコミュニティースクールを活用して様々な活動を通して地域と交流していく。 ・生徒のボランティアに関しては、募集方法などを工夫して、より多くの生徒が楽しく、積極的に参加できるしくみや環境を整えていく。
	生徒の地域ボランティア活動を奨励し、赤ちゃんふれ合い事業、小学生との異学年交流、キャリア体験学習、放課後の学習支援活動、９年生入試前直前面接練習を実施する。	地域ボランティア活動に関わる生徒数が増加し、ボランティア意識が高まってきた。地域の方の協力のもと、様々な体験を行うことができ、地域活動へ貢献しようとする姿勢も高まっている。	A	
②	学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒に主体的に取り組ませ、達成感や充実感を高める。	行事においては、生徒中心の委員会を組織して取り組ませた。 生徒が主体となって計画、運営することで、達成感や充実感を高めることができた。	A	・生徒、教師共に時間を意識し、一つ一つの活動に取り組めるよう工夫する。 ・生徒自ら目標を設定し、その実現に向けて主体的な取り組みを充実させ、成長に繋げる指導を行っていく。
	生徒が自ら計画を立てて取り組む機会を意図的に設定することで主体的に取り組ませ、教員が適切に指導・助言する。	授業を中心に行事、委員会において生徒が主体的に活動できるよう、教員が適切に支援して取り組んだ。	A	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立鈴ケ森中学校

公開

評価項目６　その他学校運営に関すること

重点目標				
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	保護者アンケートで「現在通っている学校に満足している」の調査結果で、肯定的回答が前年度を上回る。	アンケート結果より、前年度以上の肯定的回答が見られた。	A	・学校からの手紙、メールやホームページ、学校校門前の掲示板など、保護者や地域に対する学校活動の発信を行うことができている。ホームページについては、管理職、ICT支援員を中心に掲載内容を精査し工夫を施していく。さらに学級通信などを通して、学校の発信力を高めるていく。PTAを含め保護者に対する発信については、学校向けアプリの導入を検討するなど、配信する側の負荷軽減も検討いく。 ・コミュニティスクールとして、生徒や学校、地域を含めた交流、連携を引き続き行っていく。また今後は小学校との連携を深めていく。
	保護者や地域に対して、ホームページや学校掲示板、学校だより、学年だより、保護者会などを通して、本校の教育活動を発信する。	学校だよりの定期発行、学校掲示板を充実させ、教育活動や生徒の活躍を保護者、地域に発信していた。また、保護者メールを活用し、保護者へ連絡事項を発信することができた。	A	
	一貫教育とコミュニティ・スクールの意義について保護者や地域に発信し、保護者や地域人材と共に教育活動を実践する。	専門家によるSNS安全教室や水神児童センターによる赤ちゃんふれあい事業、地域の方々による面接練習、品川地域未来塾等、コミュニティ・スクールを活かした地域との連携活動を実施できた。	A	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成